

町民のひろは。

これあれ自慢

⑪ ピアノ

井上康子ちゃん (鳥喰新田・8歳)



各紙面の中で写真
御覧の方へ
お送りします。
企画課広報係まで

習い始めたのは昨年十一月。先生が驚くほどの上達ぶりです。今では曲目も多く、比較的むずかしい曲もこなせます。

初めて参加した公民館の発表会では、緊張し、弾き始めは手がふるえましたが、終ってから先生が「じょうずでした。」とほめてくれました。



八月三日、わたしたち婦人会常任委員一同は、成東町中央公民館で行われた「ボランティア一般養成講座」を受講しました。その中で特に心を打たれたのは、房総平和園長先生の施設ボランティアの例話でした。

施設の中で外部と遮断されて、不自由な心身に鞭打って、人間らしく生きようと懸命の努力を続けている生徒達は、外部との交流を渴望しているとのことでした。そして、東金高校生グループの施設ボランティアが映写されました。折目正しいあいさつ、部屋での楽



てらいのない善意を

藤代ゆう (古川)

しいおしゃべり、また、運動会では肩を組んで二人三脚をし、手を取り合っているダンスに、生徒達は全身で喜びを表していました。高校生達の純真なボランティアによって、生きる喜びと感動を味わったのでした。

ふりかえってみますと、わたしたちの地域にも、こうした交流を求めている方々がいらっしやると思っています。この方々に、わたし達婦人の心からの助け合いの手をさし、のべてあげようではありませんか。

その場に捨てると友だちが「町をきれいに」というので拾って、くずかごに捨てる。このようにくりかえしていれば、いつかは、ゴミ一つないきれいな町になるだろう。

私たち、みんなで力を合わせて気をつけていけば、ゴミ一つないきれいな町、気持ちのよい町になるだろう。

佐久間智子

大総小五年



私たちのすんでいる町を私たちの手できれいにするには、どうしたらよいか。それには私たち一人ひとりが、注意していか

町をきれいにするために

なければならぬと思う。あちらこちらにゴミや空き缶を捨てないで、くずかごに捨てたり、気がついてゴミを見つけたら拾ってくずかごに捨てる。そういう一人ひとりの

持たたいと思う。どんなところでも、かまわず捨てる。そんな人がふえたら町はきれいになるはずがない。一人ひとりに注意して、ゴミ一つないきれいな

町、すっきりした自然の町にしたいと思う。小さなゴミでも落ちていると気持ちが悪くという人がふえてほしいと思う。でもいくらそういう人がふえても、捨てようとする

思う所にくずかごがなくては、捨てる人もこまってしまう。だから、ところどころにくずかごをおいてほしい。なかつたら自分で、くずかごがある所で捨ててほしい。

最近、お店の前を通るとくずかごがそなえつけてある。だがゴミやふくろがたまり、くさりきっている。このようなことでは、町をきれいにできない。私も何度かめんどうくさくてその場に捨ててしまったことがある。自分の家でも庭に捨ててしまつて、母に注意されたことがあった。店へ行くとき何人かその場にゴミを捨てる人がいる。私が「町をきれいにしよう。」というとき、あわてて拾ってくずかごにすてる人がいる。私が